

今年から試験の時期が早まったこともあり、慌ただしく夏を迎えた人も多かったと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。資源循環システムコース・教育システム改善委員会は、皆さんから寄せられた意見や要望を分析することによって、本コースの教育システムを継続的に改善するために設置されました。本委員会では、不定期にこのような「かわら版」を配信し、講義評価アンケートに寄せられた意見や、本コースの教育活動を紹介します。本年度は、児玉委員長と、広吉、原田両委員の3名の体制で活動しています。



児玉委員長



広吉委員



原田委員

新委員長の ことば



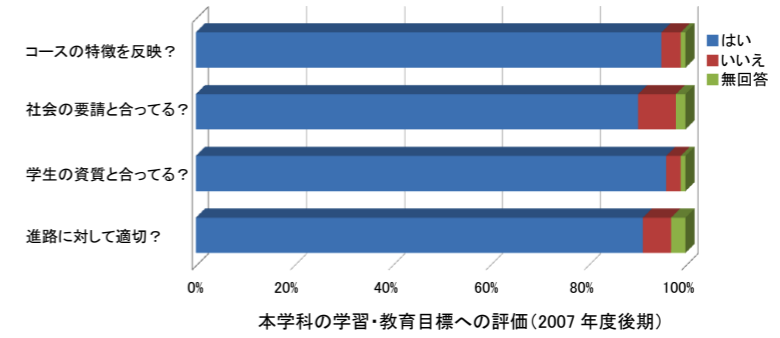
児玉委員長

教育改善はBest answerの無い(あるいはあったとしてもわからない)問題だと思います。常日頃、Bestよりは More / Better で考えるようにしています。皆さん、これはというMore / Better な意見をどしどしお寄せ下さい。ちなみに、私は食習慣も改善する必要があるようです。

2007年度後期アンケート結果

■学習・教育目標について

今年の春に行われたアンケート結果の概要です。下の図は、資源循環システムコースの学習・教育目標に対する回答結果です。本コースの学習・教育目標は、各学年のガイダンス時に説明されるほか、コースのホームページにも掲載されています。回答結果を見ると、学習・教育目標は概ね良いと評価されていることがわかります。



■カリキュラム・講義内容について

各講義に関する設問の回答は次のようになりました。学年平均人数のおおよそ1割である4件以上の回答数を目安としたところ、「すばらしかった科目」は5科目、「問題のある科目」は4科目でした。すばらしかった科目が評価されたのは、「わかりやすい」「教員に熱意がある」「興味が湧いた」などの理由からでした。また「問題がある科目」については、「説明がわかりにくい」「スライドが見にくい」など講義方法に関する指摘のほか、「教室がせまい」など講義環境に関する指摘も目立ちました。教育システム改善委員会では少数意見も含め、全ての意見について内容を分析し、改善案を担当教員に提示しています。

すばらしかった科目

- ・内容は高度だが、わかりやすかった (2年生)
- ・やりたい事が見えた気がした (2年生)
- ・熱意が伝わり、自分もがんばろうと思った (2年生)
- ・中学、高校での授業内容とは全く違ったことを学べた (2年生)
- ・内容が実用的でおもしろかった (3年生)
- ・教員の熱意 (3年生)
- ・難しい内容でも、わかるまで教えてくれた (3年生)

問題がある科目

- ・声が小さくぼそぼそしてて、字が見づらい (2年生)
- ・板書をもう少し整理して欲しいです (2年生)
- ・抽象的な説明が多かったので、もっと演習問題を取り上げて欲しい (2年生)
- ・つまらない (3年生)
- ・ほとんどまともな説明のないまま、いきなり問題を解けと言われ非常に困った (3年生)
- ・教室が狭い (3年生)

Teacher of the Year

例年、「すばらしかった科目」として最も評価の高かった科目の担当教員は、「Teacher of the Year」に選ばれます。2007年度のTeacher of the Year は

★「物理化学」 恒川昌美、伊藤真由美 両先生です。

この科目によせられたコメントは

- ・教員の熱意が感じられるわかりやすい授業だった。
- ・適度な課題もあり、何のためにやっている事なのかわかりやすい。
- ・スライドや先生の話し方がわかりやすかった。
- ・1つ1つ丁寧にわかりやすく、復習もしてくれて、わかりやすかった。
- ・・・などでした。



恒川先生



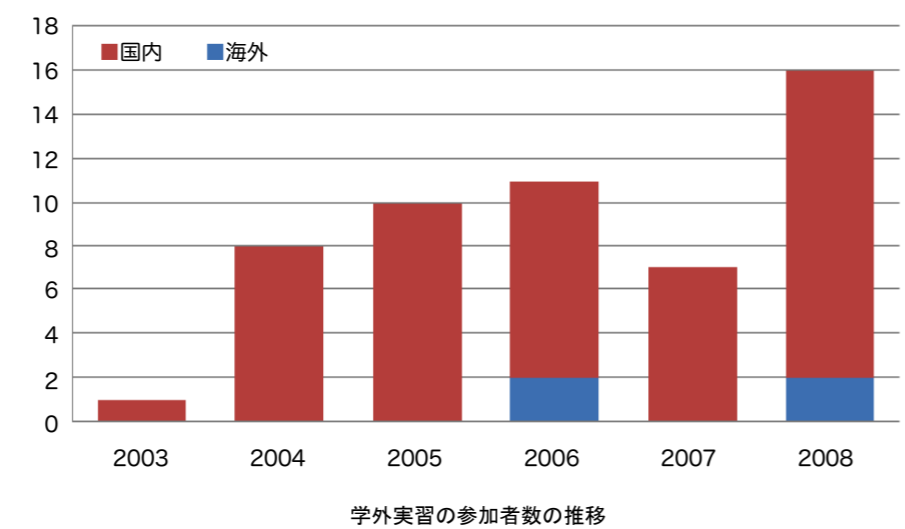
伊藤先生

★担当教員のコメント
「自分が学生だったらこんな講義を受けたいなー」ということを、私たちにイメージして取り組んでいます。まだ不十分なので、どんどん要望をお寄せ下さい。「学ぶ意欲旺盛な学生をサポートする教育」と、「冗談を言わなくても面白い講義」をめざして・・・さらに精進します。

より詳細なアンケート結果は、資源循環システムコースのホームページ (<http://rock.eng.hokudai.ac.jp/sre/index-j.html>) に掲載されています。コースのホームページには、新着情報や年間行事の予定なども掲載されているので、是非チェックしてみてください。

■学外実習

3年生対象の科目「学外実習」は、以前は必修科目であり、みんな3年生の夏に全国で実習を行っていました。その後この科目は廃止されましたが、企業や研究所などで、現在大学で学んでいることがどのように生かされているのか、を理解することの重要性が再認識され、2003年度から選択科目として復活して現在に至っています。以来、この科目を通して実習を行う人は年々増えており、今夏は15名(うち1名は2件)の3年生が実習を行う予定です。



アンケートへの回答

H20春アンケートで寄せられたコースへの意見や要望に対して回答します。

Q. 資源循環システムコースの特徴がよくわかりません。

我々のコースでは天然資源の開発・利用、リサイクルや地層処分、汚染環境の修復などに取り組むことができます。最大の特徴は、地殻という自然(地球)を対象にしていることです。観察や観測により、自然の性質(法則)を明らかにした上、それをうまく利用していこうというのが基本的な考え方です。まず、地球ありき! 自然との対話が基本です。そしてこれには、地学をはじめ、数学、物理、化学、生物などの知識をフル活用します。時にはガチガチのエンジニアリングもするけれど、工学部の中で最も理学的センスを要求される場所、それが資源循環システムです。

Q. 国際政治や経済学を学びたい。

その積極的な姿勢と見識! すばらしい! 君が看破したように「資源」や「工学」をより深く理解し議論するためには、技術のみならず、政治や経済(ついでに言うとも歴史)の知識が必要です。残念ながら、現在のカリキュラムの中に政治経済の問題を集中的に取り上げる講義はありませんが、個々の講義の中でこれに関わるトピックスを取り上げているものもあり、将来このような講義を設定することの必要性について議論も始まっています。今すぐ学びたい、もっと学びたいと思うあなた! 我々のコースでは、6単位まで他学部等の講義を受講できる制度がありますよ! ただし、コース長と受講したい講義の担当教員の双方の許可が必要です。まずはコース長に相談すること(詳細は工学部学生便覧の「他コース・他学科・他学部開講科目及び国際交流科目の履修」を参照すべし)。きっと君は北大に入学したことを感謝するでしょう! なぜなら、ここでは10分でほとんどの学部の講義室へ歩いていけるのですから!

Q. 資源はこの規模を変えずにアットホームな感じを継続して欲しい。

このような意見は複数寄せられました。全ての学生がそう思っているかわかりませんが、多くの教員は同じ意見で、このアットホームな感じを継続したいと考えています。少人数教育には色んなメリットやデメリットがありますが、お互いの顔がわかる関係を学生と築けることは大きなメリットだと思っています。研究室に配属すればわかりますが、教員同士も実にアットホームな関係で、隣の家から醤油を借りるように実験装置を借り合ったりします(いまだきお隣から醤油借りへんけどね! by 文責者と別の一委員)。

Q. このアンケートの取り方が悪い!

問題点が具体的に書かれていなかったため、ぜひ君の思うところを我々(児玉、広吉、原田)に伝えて下さい(直接部屋を訪ねてくれてもよし、そっとレポートボックスに投書してくれても良いし、別の先生に相談してくれてもよい)。現在のアンケートは、例えば「コースの学習・教育目標に関する設問が抽象的で答えにくい」などいくつかの問題があり、書式を変更する必要があるのかもしれませんが、各講義の内容等に関する質問などは、書式を変えると問題ありと指摘が多かった講義が次年度に改善されたかどうかかわからなくなるので、簡単には書式を変えられません。でも君の言いたかったことは、もっと根源的なことかもしれない! ぜひ、問題を具体的に教えてください。